

産官学連携プロジェクト「滋賀カレッジ 2025」



全国からファンが訪れる「ラ コリーナ近江八幡」

地域の新たな魅力発見
旅行需要の喚起
地域の課題解決への提言

DATA

● 主な連携先・メンバー

近江八幡市（総合政策部 観光政策課）
西日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部
関西大学商学部 鮎野ゼミ

● 活動地域

滋賀県近江八幡市全域
（八幡堀周辺・新町通り・沖島・安土城跡周辺・長命寺・ラ コリーナ近江八幡など）

● 活動期間

2025 年度

● 活動資金

自己負担

長命寺にて



目的

マッチングした自治体（2025 年度近江八幡市）の新たな魅力を発見し、旅行需要の喚起と当該自治体の課題解決に向けた具体的提案を行う。実際に現地を訪れてフィールドワークを行う前に、事前のリサーチを行い、自治体の方々、地域の方々との意見交換、交流も必須となる。



八幡山で
出会う風に揺れる
夏だけの涼景色

琵琶湖の恵みが
牛々と凝縮、
近江牛！



連携に至る経緯

当ゼミでは、西日本旅客鉄道株式会社主催の自治体と大学による産官学連携のプロジェクト「カレッジ」に、2019 年より参加してきた。2019 年度～2022 年度「瀬戸内カレッジ」、2023 年「北陸カレッジ」、2024 年度「瀬戸内カレッジ」、2025 年度「滋賀カレッジ」のプロジェクト。年度によってエリアを変えて開催されてきた。2024 年度は、能登半島地震から、舞台を瀬戸内に戻して開催された。

2025 年度は、「滋賀カレッジ」として、滋賀県内の 7 つの自治体を舞台に開催され、当ゼミは、近江八幡市とタッグを組むこととなった。関西・関東の 7 大学・団体が、5 月から 11 月末までの期間、活動に参加した。

日本でただ一つの暮らし
いっぺん来てみて沖島！

活動内容

近江八幡市の観光需要の喚起に向けて、観光政策課の市職員の方々と共に活動に取り組んだ。5 月のキックオフに始まり、Web 会議を重ね、8 月、9 月の 2 回の現地研修を行い、新たな魅力と課題解決の糸口の発見に努めた。10 月中



近江八幡市のファン獲得へ向けて特別な体験
八幡堀めぐりの提案

昼は“食と歴史を味わうお茶会”
夜は“光と静寂を楽しむ灯り舟”を提供

近江八幡市役所にて市長と対談



活動の成果

- 行政と大学が協働することにより、地域の課題を見つめ直し、新たな価値を生み出せる可能性を発見
- 現地研修の事前準備、実際に現地を訪れる現地研修を経て、提案内容の考察・推敲を重ね、プレゼンテーション完成
- 最終成果報告会での審査において最優秀賞受賞
「分析力」「創造性」「コミュニケーション力」「持続可能性」「実現可能性」「プレゼンテーション力」の 6 項目による総合評価

連携先からの一言

本事業では、実地調査や地域の方々との丁寧な対話を通じて、近江八幡の魅力深く掘り下げていただきました。「滋賀カレッジ 2025」において、鮎野ゼミの皆さんが最優秀賞を受賞されました。先生をはじめ学生一人ひとりの柔軟な発想と熱意ある取り組みが、今回の成果につながったことは間違いありません。

また、行政と大学が協働することで、地域の課題を見つめ直し、新たな価値を生み出せることを改めて実感しました。在学中の方やこれから関西大学をめざす高校生の皆さんにとっても、大学での学びが地域の未来を形づくる力になることを示す好例となったのではないのでしょうか。近江八幡市では、関西大学の皆さんと再び地域づくりに挑戦できる機会を、心から楽しみにしています。

（近江八幡市 総合政策部 観光政策課 嵐 孝雄氏）

間報告会を経て、11 月末の成果報告会では温めてきた具体策を提案した。当市のライフスタイルツーリズムの観光理念を礎に、「近江八幡市のファンを増やす」ことを目標とした。近江八幡市は、アクセスが良く歴史的な景観やグルメが楽しめる一方、日帰り客が多く滞在型観光が育っていないことが課題である。そこで、観光客の誘客と分散、夜の観光コンテンツの提案を行った。

3 つのオリジナル提案として「はちまんマルシェ」では市民と観光客の交流を図る機会の創出と、観光案内所として機能させること、「ぐるっと近江八幡」ではすごろくで文化学習と周遊意欲向上、「八幡堀ひるとよるめぐり」で滞在延長とリピーター獲得を図り、近江八幡市の魅力発信とブランド化を目指した。「近江八幡市らしさ」といった市特有のプロモーションの大切さを学んだ。



成果報告会での
プレゼンテーション

成果報告会にて
参加 7 大学・団体の
最優秀賞を受賞



今後の課題・目標・展開の可能性

- 2013 年度からスタートした「カレッジ」は、現行の形態を終了し、2026 年度より新たな連携プロジェクトとしてスタートする。
- 中国地方 5 県（岡山、広島、山口、鳥取、島根）における多彩な魅力を体感し、実際に SNS 等リアルイベントを活用して、その魅力を広く発信するプロジェクトが予定されている。
- 実際の事業への参画を通じた、新たな学びと実践の機会として展開できるかどうかが鍵となる。

商学部 教授 鮎野 仁子 Ameno Hiroko



専門分野は、物流・ロジスティクス政策。
キャンパス・教室内、教科書の中だけでは学び取れないことがたくさんある。関大生には、五感を研ぎ澄まして、社会と深く関わって幅広いものの見方を養ってほしいと思う。

